

世帯と人口

(5月1日現在)

世帯	43,657	(+227)
人口	118,726人	(+272)
男	60,665人	(+146)
女	58,061人	(+126)

この数値は平成12年国勢調査人口を基に異動人口を加算し集計したものです

広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。



右下・旧津久井郡日連村勝瀬地区(井上陸氏提供)

▲一面のレンゲ畑は春の風物詩

えびな模様…勝瀬から

語り継ぐレンゲの里

ここは勝瀬。春はレンゲの花のじゅうたんに覆われて、花摘みに来る子どもたちの歓声がこだまします。季節が変わり、一面に農業用水をたたえ、いろいろな野鳥が飛来して私たちの目を楽しませてくれます。このような安らぎの空間を提供してくれる勝瀬は、実は、市内の2箇所に分かれています。その理由をさぐると勝瀬の歴史に出会うことができます。

「勝瀬」という地名は、元は旧津久井郡日連村にあってた集落の名前です。豊かな自然に恵まれ、森林、水など資源も豊富な場所で、稲作も盛んでした。蛇行する相模川の流れて囲まれて、他の地域から独立したような地形だったためか、集落内の人々はお互いによく助け合い、団結心が非常に強かったそうです。

しかし昭和13年、勝瀬とその周辺は相模川ダム建設地に決定され、水没することになりました。このため、勝瀬集落のおよそ半分が昭和17年から海老名(当時の国分と大谷の一部)に移住を開始しました。住民はふるさとの地名をぜひ残したいという強い願いから、移住先の集落名をそのまま「勝瀬」と命名しました。これが現在の東側の地域(住居表示地区部分)です。

そして移住が終了する同19年には、県が稲作のための水田地帯をあっせんし、住民はそこを飛び地として持つことになりました。市役所周辺の勝瀬地区がこれにあたります。

移転にあたっては道祖神や石碑をはじめ、菩提寺の鳳勝寺と氏神を祭る八坂神社も、土台の石を始めすべての資材を運び込み、現在の場所に移築しました。移住直後はとりわけ人々の心のよりどころとなっていたそうです。また、祭礼の太鼓・踊りなど、信仰や風俗習慣もそのまま伝えられてきました。

時は流れ、当時の様子を知る人はわずか。「あのころの大人たちのがんばりで今の地球上の海老名市に『勝瀬』がある。何物にも替えがたい財産だから風化させたくない」と年配の人たちは話します。ぜひ、世代から世代へと語り継いで欲しいものです。

勝瀬 アラカルト

- ・人口と世帯(5月1日現在) 47人 (男23人・女24人) 187世帯
- ・面積 0.21平方キロ(市全面積は26.48平方キロ)
- ・地名の由来 ①相模川の瀬が勇ましく流れる瀬なので、②川瀬が景勝をつくり出したので、などの説がある

